

## 1.施設（サービス）の目標・・・在宅復帰/在宅(療養)支援

当法人（施設）は設立理念に謳うとおり、今後も在宅復帰・在宅(療養)支援を目指すという旗幟を堅持していく。

また、当施設の提供するサービスが、ご利用者の安定した在宅療養に資する具体的な成果（≡「ギフト」）を生み出すというエビデンスを確立し、それを「見える化」したい。つまり、「ご家族へのレスパイト機会の提供」のみならず、「ご本人の機能維持+回復が可能なリハビリ機会の創出」へとサービスの質を充実させるべく、引き続き心がけたい。

そのために、職員が須らくご利用者の心身機能維持・改善を志すという作風（=リハビリマインド）を、今後も施設全体に定着させたいと考えている。

### 1) 入所（相談+療養）

療養床稼働率の回復(>95%)。

超・強化型老健の要件を満たす入所管理（=在宅復帰・在宅療養支援等指標 70 点以上）。

社会医療法人西陣健康会/堀川病院との密接な連携の維持。

長期占有床（1年以上：'23年12月末時点で39床）の逡減、短期入所の促進。

往復型利用の有益性を立証し、それを「見える化」する。

心身機能維持・改善を可能にし、それをご本人・ご家族への「ギフト」として提供する。

### 2) 通所（療養）

ご利用者数について適切に目標管理を行う。

通所による機能改善効果の検証・・・リハビリ部門との協業。

心身機能回復を可能にすべく、セルフメニューを含むリハビリプランを提案する。

居宅介護支援事業者との連携を深めるために、より円滑な意思疎通に努める。

### 3) リハビリテーション

入所ご利用者全員への、効率的かつ遺漏なきマネジメント計画策定/サービス提供。

PDCA サイクルに則った、個別のリハビリ計画を立案する。

獲得できる具体的な成果（≒「ギフト」）について、期限を明確にし「見える化」する。

リハビリマネジメント加算 A 算定例の増加。

訪問リハビリ事業の継続と、得られた経験と成果のフィードバック。

## 2. 従来業務の標準化・精度向上と組織強化

1) 業務に関連するマニュアル類の精度向上・簡素化。

2) 記録業務の効率化・省力化、フォーマット類の標準化。

3) 各種（定例）会議について随時見直し、一層の効率化を図る。

4) 各職制に応じた職務内容・権限責任について明確化し周知を図る。

5) 各職制に対し随時代行可能な人材を養成し、組織内においてその認識を共有する。

## 3. 公正な人事、及び能力開発と福利厚生

1) 組織の存続を確実にする人事と公正な労働分配

持続的な人材の確保と定着を可能にするため、定年制を含めた人事諸規定を随時見直す。

公正な運用に基づく人材評価システムと、それに基づく報酬制度の精度向上。

2) 能力開発

キャリアパスに基づく能力開発の奨励と促進。

諸資格取得への援助（介護福祉士・ケアマネ等）。

各種研究・学会演題発表の奨励（老健関連のみならず）。

自発的研修の勧奨と支援。

### 3) 福利厚生

家庭で育児・介護を担う職員への支援。

職員の有給休暇取得奨励。

残務軽減のため、定期的に通常業務の見直しを行う。

厚生施設利用について、その方法の普及と実績増進を図る。

## 4.法人財務基盤の強化

1) 資金の蓄積と適切な管理・運用を図る。

2) 年次ごとの福祉充実計画に基づく適切な資金投下を継続する。

## 5.法人(新)事業の展望

1) 事業全体の業務継続計画（BCP）を立案し、随時見直す。

2) 居宅介護支援事業の検討。